

日本の未来を見据えて撃つ！

そんなあなたにホットな話題をお送りする

最先端オピニオン紙

日本シティジャーナル

発行: ネットハウス

〒286-0825 千葉県成田市新泉 14-3

TEL 0476-89-2333 FAX 0476-89-2334

[平日: 10:00~19:00、土曜: 12:00~17:00]

http://www.nihoncity.com

成田市、佐倉市、印西市、富里市、香取市、山武市、船橋市

千葉市(花見川区、美浜区)、習志野市、八千代市、四街道市

高々井町、淡路、小林、安房、多古町、横芝光町、芝山町、神崎町

発行部数: 500,000部

古代日本の地勢観 Part.Ⅲ

琉球諸島を一大拠点としたイスラエルの民

世界の古代文明には計り知れない英知が潜んでいます。最先端の科学技術を駆使して検証しても、到底理解することのできない古代の謎は今もって多く残されており、日本列島の地図上で一直線に並ぶ要所の存在、環状列石に見られるような夏至と冬至の日の出、日の入の方角を重視したと考えられる遺跡なども、決して例外ではありません。地勢図や詳細地図等が存在しない古代において、識者らは山や湖、岩石等を地勢上の指標とし、それらと集落の要所を同一線上に結び付けたり、同じ緯度上に重要な拠点を見出して一列に並べる術を知っていました。そして旅する先々で、島々や山、湖などの地勢との関連性を考慮しながら地の利を見極め、より優れた立地条件を備えた地域を選別しながら、古代集落や祭祀活動の拠点を増やしていったのです。

それ程まで古代人にとっては、人が居住する集落を形成する場所の位置決めは重要であり、正確な緯度や方角のデータに基づく村おこしは、自然界を敬う信心からしても大切でした。古代人の根底に潜む思考性と地勢に関するこだわりは、集落が築かれた場所の位置付だけでなく、周辺の地勢、緯度、そして冬至、夏至の日の出や日の入りの方角等までもが綿密に考慮されている事実を検証することにより、理解することができま。それ故、列島の目印となる指標や基点となる集落の存在と、それらの関連性を見極めることは、古代人が目論んだ拠点形成の軌跡を理解する上で重要で。

古代の指標となる目印とは

正確な地図やナビゲーションシステム、案内図が無い古代社会において、人々は何を見ながら海を渡り、日本列島の島々を巡り歩いたのでしょうか。そしてどのような手法をもって、旅する先々で目的地を見出すことができたのでしょうか。優れた天文学と航海術のノウハウが培われた古代文明に培われた民だけに、闇雲に旅立つとは考えづらく、どこへ向かうにしても、その行き先の目安をある程度理解した上で旅をしたに違いありませ

ん。その為にも、天文学や暦の知識、方角の定め方等がある程度理解し、誰もが識別できる地勢上の指標を列島各地に見出す洞察力が不可欠でした。

それらの指標としてまず注目されたのが、島の存在そのものです。大海原を航海しながら島々を移動した古代人にとって、一目で島の全体像を見極めることができる大きさの島ほど際立つ指標はありません。遠くからその存在と形状を確認でき、徐々にはっきりと目に映ってくる島の姿は、航海者に希望と安堵感を与えたことでしょう。また、大きな山や巨石の存在も極めて重要です。陸地から離れた海上からでも海岸線の背後に聳え立つ山の姿は随所で散見でき、特に標高の高い山並みの形状は一目瞭然とわかりやすいことから、いつの日でも陸海双方の指標として用いられました。また、列島の各地で見られる巨石の存在も自然界が生んだ大自然の賜物として重要であり、巨石信仰に発展することこも多く、地勢上の指標として用いられる傾向がありました。

山の存在と同様に、岬も大事な指標です。海岸線から突出する岬の光景は、海を航海する者にとってわかりやすい目印であるだけでなく、岬のそばには舟を接岸しやすい港の候補地が存在する可能性が高いのです。海岸線沿いを航海する際でも、確海上の目安として岬の位置を確認することは重要でした。また、陸地においては大きな湖の存在も大事な指標となりました。遠い昔から、水源を確保することは古代の民にとって生命を維持する為の最重要課題の一つであり、湖の存在こそ、究極の水源として重宝されたのです。

こうして古代の民は、周辺の島々や岬、山や巨石、そして湖の位置を見極め、それらの緯度や方角等の位置づけも考慮した上で、その中から地勢に準じた優れた指標を定めたのです。それらの指標は、列島内に拠点を見出す為の基点として用いられ、時には旅の指標としても活用されました。これらの指標を定め、日本列島の随所に自らの民族の拠点を設けた先駆者が、イザヤ

の一行に導かれたイスラエルからの移民です。

イスラエルから脱出した古代の旅人

日本列島には古代から大陸より海を渡ってくる渡来者が存在しました。前二十世紀から前十世紀にかけては既に、中国大陸と台湾において舟の行き来が盛んになり、アジア大陸の東岸沿いを北上して朝鮮半島から対馬方面に向かう航路もその後、徐々に認知されました。日本列島全体を網羅する古代の渡航経路は定かではありません。しかし縄文時代においては既に琉球諸島や東北、北海道、また本州中部等、列島各地に集落が形成され、これらの民が南方から到来した可能性が高いことが昨今の研究により指摘されています。南方の島々や琉球諸島を経由して渡航してきた民が、古代から存在したことに違いはありません。

前722年に北イスラエル王国、前586年には南ユダ王国が崩壊した後、国家を失った何十万人ものイスラエルの民が祖国を離れ、新天地を探し求めて旅立ちました。その先行隊として、舟でひたすら東方を目指した群れの存在に注目です。この集団こそ、預言者イザヤに導かれたイスラエルの集団であり、一行の中にはレビ族の祭司だけでなく、ユダ王朝を継続する目的で同行したダビデ王系の子孫も含まれていたことでしょう。イスラエルを脱出した一行には、大陸の延長線にあると考えられていた「東の島々」に向かう動機がありました。それはイザヤの預言を元に、新天地に向けて神宝を携え、そこに新しいエルサレム、平安の都を造営して神の訪れを待ち望むことです。神の約束を信じた一行は、大陸の東の端まで海岸沿いを舟で渡り、そこから台湾を経て八重山列島へと航海を続けたのです。

台湾の東方に浮かぶ八重山列島は10の島々から形成され、台湾に一番近い手前の島は与那国島と呼ばれました。与那国の名前の由来は定かではありませんが、旧約聖書のヨナ書に由来している可能性があります。ヨナ書には、魚にのまれたヨナが

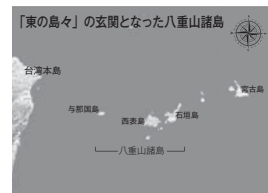
一命を取り留め、その後、魚から吐き出されて陸地に辿り着いた話が記載されています。神の憐れみにより、国家を外敵に飲まれて失ったイスラエルの民が、長い海の旅から吐き出されて到達した最初の島が与那国島であったと考えるならば、イスラエルからの渡来者とヨナと並行して考えることができます。神の言葉を信じて旅を続けてきたイスラエルの民にとって、「ヨナ」国とは安息の象徴であり、それは神が約束された東方の島々への玄関口だったのです。

与那国島から東方の石垣島まで100キロメートル少々あり、この2島の間に八重山列島が広がります。一説によると八重山列島は元来、島々の稜線が8つの山により繋がり、それらが八重に連なっていることから八重山と名付けられたと言われています。しかしながら8島を同時に眺めて山の連なりまで見ること自体が困難であることから、単なる伝承にすぎないようです。「ヤーエー」はヘブライ語で神を意味することから、むしろ「八重山」を「神の山」を象徴する言葉として捉えてみてはどうでしょうか。つまり、「八重山」の名称には、約束された東の島々の山に神が降臨するという、イスラエル人の熱い願いが込められていたと考えられます。この「八重」という言葉は、琉球諸島へ北上すると多用されるようになります。

列島の最初の拠点となる沖縄

「東の島々」の玄関となる八重山列島の東端、石垣島から東方へ40キロメートル程航海すると多良間島があり、更に50キロメートル程、東へ向かうと宮古島に到達します。そこから北東方向に黒潮の流れに乗って、およそ270キロメートルという長い距離を航海すると沖縄島に着きます。人力で漕ぐ舟の長旅は大変危険であり、八重山列島や宮古島からは全く見ることができない沖縄島への海の旅は、正に命がけであったと言っても過言ではありません。神への信仰心と強い目的意識があつてこそ、初め立ち向かうことができる冒険の舟旅です。そして数日も荒波を乗り越え、水平線の向こうに沖縄島が見えてきます。

南の端から北の端まで100キロメートル以上も広がる大きな沖縄島は、温暖な気候と自然の産物に恵まれ、大陸を横断してきた渡来者にとって、居住する集落



を築く絶好の島国でした。特に沖縄島の南部、今日的那覇から沖縄市にかけては広大な平野部に恵まれ、陸上交通の発展に適した地勢と、港にも適した湾岸を有していたことから、島の中心として早くから栄えました。食産物も豊富に収穫できる沖縄島は、アジア大陸から渡来する古代の航海者にとって、体と心を癒す理想郷のように思われたに違いありません。そして沖縄島に長居するにつれて、いつしか沖縄がイスラエル系渡来者の一大拠点となっていくのです。

沖縄島の中心地は古くから「ナハ」と呼ばれました。「ナハ」はヘブライ語で「(nakha、ナハ)と書き、「安息」、「安住」を意味する言葉です。正に一大拠点となった沖縄の中心地にふさわしい名称と言えるでしょう。また、沖縄の南方にある八重山列島がヘブライ語で神を意味する「ヤーエー」という言葉を含んでいるように、沖縄島周辺でも至る所において、「ヤーエ」という言葉が地名に用いられていました。例えば名護市の北西に聳え立つ山は、八重岳と呼ばれ、那覇の近郊には八重瀬町、そして八重島の存在など、「八重」という言葉が沖縄各地で多用されています。これらの地名の多くは由来が定かではありませんが、古くからの言い伝えがあったからこそ、各地の名称で「八重」という言葉が用いられてきたことに違いはありません。

琉球諸島に残るイスラエルの痕跡

前七世紀頃からイスラエルの民が沖縄を訪れ、那覇を中心として琉球界隈に集落を築いた痕跡を、琉球各地に伝承されてきた文化や言葉から垣間見ることができま。まず、沖縄では伝統的な行事はほとんども旧暦で行われ、イスラエルの暦と類似点が多いことに注目してみました。1月14日は旧暦の大晦日、トゥシヌルと呼ばれ、その日は夜になると豚の血を切干大根に混ぜたチーイリチーを祭壇にお供えしてから食べ、夜明けまで起きていないと災いにあうとも伝えられています。そして翌日15日にはお正月を迎え、御馳走を備

次頁に続く



クマヤ洞窟の外観



クマヤ洞窟内の割かれた契約の岩



クマヤ洞窟の正面から崩れ落ちた巨大岩石の跡

「ニライ」は「**נֵרַי** (neer, ニー) と「**אֵי** (i, イ) という2つのヘブライ語を混合した言葉です。前者はイスラエルのキブツと呼ばれる集団生活の拠点を称する名前の頭3文字としても頻繁に使われる言葉です。原語の意味は「耕された畑」です。つまり「ニー」「ニライ」とは、穀物が収穫できる良地を象徴する言葉であり、それ故、イスラエルのキブツの名称に用いられています。また、後者の「イ」は島を意味します。すると「ニライ」とは、「耕された畑の島」、すなわち、食物が豊かで、居住しやすい楽園の島を意味することになります。

次に「カナイ」の語源を理解するために、ヘブライ語で「取得」を意味する **קָנָה** (kanah, カナ) の語尾が変化した **קָנוּי** (kanooy, カヌイ) という言葉に注目してみました。この言葉には土地や名声を手にするという意味があり、取得して後、その土

地に永住するというニュアンスが含まれています。すると、「ニライカナイ」の意味がヘブライ語で明確になり、直訳すると「耕された畑の島を得て長く住む」という意味を持つ言葉であったことがわかります。すなわち「ニライカナイ」とは、食物に溢れ、長寿を全うできる「理想郷の島」で永住することを意味していたのです。それは正に、神がイザヤに約束した東の島々を意味するものであり、イザヤの一行が目指した最終の目的地を指していたのです。

クマヤ洞窟に潜む宗教文化の背景

古代、イスラエル系渡来人の手が掛けられたと考えられるもう一つ大事な史跡が伊平屋島に存在します。伊平屋島は沖縄島の北東方向41kmにあり、今日、沖縄県として有人島の中では最北端にある島です。沖縄島が那覇を中心とする憩いの島として渡来者に定着するにつれて、伊平屋島は久高島と共に琉球の聖地として認知されるようになりました。伊平屋は漢字表記では恵平屋とも呼ばれ、その漢字名を逆さに読むならば、「ヤヘエ」、「ヤーヘイ」となり、ヘブライ語で神を意味します。古くから「神」を意味する名前が島の名称につけられていることからしても、伊平屋島の位置づけの大切さを理解することができます。

島の北部には「ヤヘー岩」と呼ばれる巨大な岩石が海辺に隣接しています。天から滴り落ちてきたような岩石の形状は独特であり、古代の民は、この岩を聖なる目印として「神の岩」と呼んだのです。その「ヤヘー岩」のすぐそばに、藤原貞幹が江戸時代の後期、「衝口発」という論文にて激論を繰り広げたクマヤ洞窟があります。「衝口発」によると、

神武天皇は伊平屋にて出生しただけでなく、このクマヤ洞窟が天の岩戸伝説の舞台であったとしています。「衝口発」には根拠が不透明な論説が多分に含まれていることから、発表当初から議論は尽きず、本居宣長を筆頭に多くの学者はこの論説を糾弾しました。クマヤ洞窟と岩戸伝説の関連性については定かではありませんが、洞窟の実態を確認すると、そこには安易に聞き流すことのできない不思議な様相を今日でも目の当たりにします。

まず、正面の形状を検証すると、洞窟全体を構成する巨大な岩石の前面部が最上段から落下した形跡を確認することができます。洞窟の正面側は、岩石がおよそ平らに切り落とされたような様相となっており、そこから崩れ落ちたと考えられる大きな岩石が、向かって左側に落下したまま残されていることを確認できます。人為的に崩された可能性さえ否定できないような不思議な切り口ではありますが、いずれにしても、遠い昔、洞窟の入口がその岩石によって一時ふさがれたことがあったとしても不思議ではありません。岩戸伝説との関わりについては何ら立証する術はありませんが、しかしながら、これほどまではっきりとした落石の痕跡が残されている巨大洞窟の入り口の存在は、他に例がありません。

また、実際にクマヤ洞窟の中に入ってみると、その中は意外に広いことに驚きます。そして奥にある祭壇の右側には、2つに割れた岩が左右に広がるように置かれ、その中間が通り道となっているようです。この2枚の岩こそ、古代イスラエルの民が神との契約のシンボルとして設置した、割かれた生贄の象徴であると考えられます。旧約聖書創

世記15章には、アブラム(後のアブラハム)が生贄を真っ二つに裂いて、互いに向かい合わせて置いて、煙と松明に象徴される神がその間を通りぬけ、神ご自身が約束の成就を契約をもって示したことが記されています。この象徴的な出来事から、古代イスラエル人は、1つの体を2つに割いてその間を通ることは、命をかけて約束の契りを結ぶ意味となることを知っていました。その割かれた生贄の象徴となるべく、大きな岩石が真っ二つに綺麗に割られ、その中心部分を人が通れるように開けて、神との契約を結ぶ儀式がそこで行われたと考えられるのです。このような割かれた岩の祭壇は諏訪大社の裏、守屋山の磐座等にも散見され、クマヤ洞窟の中にそれが人為的に作られていたこと自体、古来、イスラエルの民がその場所で祭祀活動を行っていた可能性が極めて高いことを示唆するものです。

後述する通り、クマヤ洞窟を有する巨大な岩石の容姿そのものは、四国剣山に向かう途中の山麓に存在する巨大な磐座に酷似しているだけでなく、海岸沿いの島にも同じ形状の巨石が彫り砕かれて残され、また、その形をモデルとしたミニチュア版の磐座も、諏訪大社の奥宮である裏山の守屋山の山麓上に見出すことができることからしても、クマヤ洞窟との関連性を匂わせています。特に守屋山は古代集落として名高い阿久遺跡のそばに聳え立つ名山であり、阿久遺跡と列島の中心である淡路島とは地理的な相関性があるだけでなく、琉球諸島との繋がりも指摘されていることから、これらの洞窟や磐座の存在と、その地理的な位置づけが相互関係を持ってい

ること自体、古代人の知恵の結晶と考えられるのです。その背後に潜むマスターマインドが、イスラエルから渡来人であったのです。

琉球はイスラエル文化の宝庫

イスラエルの信仰が古代からしっかりと根付いていたからこそ、琉球王国では遠い昔から祭政一致の政策が培われ、島々の各地において宗教行事が執り行われてきたと考えられます。それ故、琉球諸島には、八重という文字を含む多くの地名だけでなく、土着する祀り行事の数々や、古くからの風習の背景に、イスラエルの宗教儀式の痕跡を見出すことができます。神に仕えることを一心に願ったイザヤ一行を中心とするイスラエルからの渡来者は、祖国で行われていた宗教儀式を新天地でも執り行い、それらの幾つかは長い歴史の中で伝承され続けました。その結果、沖縄県では日本でも、最も信心深い宗教観を反映した島の一つに挙げられ、霊媒者、霊能者が多いことでも知られています。

中でも、沖縄島の南東、久高島で行われてきたイザイホーの祀りは、その特異性とユダヤ教との類似性において際立っています。12年に一度行われてきたイザイホーは、1978年を最後に、祭儀を執り行う女性が不足した為、行われていません。このイザイホーこそ、旧約聖書のレビ記23章に記され、ユダヤの三大祭りのひとつである仮庵祭の流れを汲む宗教儀式です。琉球の最も貴重な民族宗教文化の一つがまた消え去っていくことに、歴史の無情と寂しさを感じないではいられません。(文・中島尚彦)

連載中の歴史コラムは随時更新して
<http://www.history.jp.com/>
に掲載しています。是非ご覧下さい。

活躍できるステージがあります

サウンドハウスは楽器・音響業界のネット通販で全国トップ*
ひとり一人のお客様にとって最高の存在でありたい
「すべてはお客様の笑顔のために」



*米商 Music Trade誌 2012年8月号より



物流倉庫管理スタッフ (パート・正社員) 募集

未経験者から幹部候補まで大募集!最新の物流システムを導入。全国へ出荷する商品のピッキング・梱包、商品の出入庫管理や通関業務を行います。主婦・フリーター多数活躍中!業務の改善を積極的に提案して下さい。

*フォークリフトの経験者、中型・大型免許取得者歓迎

パ 時給1,000円~
社 月給19万円~

【時間】社員:平日・土曜日7:00~17:00(休憩1H)※早出、残業有
パート:7:00~19:00で6時間以上勤務できる方
【休日】日祝日、隔週土曜、年末年始休暇、有給休暇

充実の福利厚生

- 社保完備、年2回賞与(パート含む)
- 車通勤可 ●海外研修 ●天然温泉無料優待
- 独身・家族用マンション、家族用戸建あり etc...

サウンドハウスグループの中核である物流を担う

株式会社 **ロジハウス**

最新の採用情報はWEBサイトで確認下さい >>> <http://guide.soundhouse.co.jp/kaisya/saiyou.asp>

応募はWEBサイトから、もしくは希望業務内容を記載の上、履歴書/職務経歴書を直接郵送してください 〒286-0825 千葉県成田市新泉14-3(野毛平工業団地内)



【お問合せ】(担当:採用係)

0476-89-1777
job@soundhouse.co.jp

成田ナル×NAVI

第90回

湯葉と豆腐の創作料理の店
京都銀ゆば

京成成田駅前アパホテルの1Fにある「京都銀ゆば」。メインとして推しているのが湯葉と豆腐という、ヘルシー志向の創作料理チェーンとして全国にチェーン展開をしている。まずは看板通りの引き上げ湯葉と出来たて揚げ豆腐をオーダー。いずれもテーブルの上でコンロにかけた鍋で頂く。湯葉は豆乳の表面に出来た膜を掬って

食べるのだが、食べ頃の見極めが難しくなかなかうまくいかない。後半になってようやくコツをつかみ、こだわりの湯葉を楽しく頂いた。豆腐は鍋の中で温められ、固まったところで掬い、ネギやワサビを添えて頂く。大豆の香りと甘みで濃厚な味わいがボリューム不足の感もある。どちらも火にかけてから多少時間がかかるが、女子会などでお喋りしながら、ヘルシーで美容に良い料理を楽しむにはマッチしそうだ。またアルコール類や、地鶏焼き、刺身、焼きラーメンなど単品居酒屋メニューも豊富で、会社帰りのサラリーマンやカップルなどの姿も多く、幅広い客層が楽しめるメニューが用意されている。

京都銀ゆば

千葉県成田市花崎町906
アパホテル1F
☎0476-24-0339
[11:30~14:30/17:30~23:00 無休]

総合評価★★★★☆



カリフォルニアのおいしい水

アクアヴィル

AQUAVILLE

PURIFIED DRINKING WATER

500ml×24本

458円

全国どこでも送料420円

※一部地域、離島は除く

お手頃な価格でお届けします。
【携帯でのご注文はこちら】
フィットネスハウス
☎0476-89-3111



正社員・パート募集中

- 自社製品の企画・開発、デザイン
- 国内・海外取引先への商品発注
- 電話やメールでの問合せ、注文の対応
- 自社ショールームでの接客、受付
- 自社WEB通販サイトの制作、管理
- 販売管理システムの構築、管理運用

社 月給19万円〜 時給1000円〜

最新の採用情報はWEBサイトでご確認下さい >>>
<http://guide.soundhouse.co.jp/kaisyai/saiyou.asp>

〒286-0825 千葉県成田市新泉14-3 (野毛平工業団地内)



応募はWEBサイトから、もしくは希望業務内容を記載の上、履歴書/職務経歴書を直接郵送してください
※TOEIC受験経験者はスコアを明記してください

国内最大規模の楽器・音響機器販売会社

株式会社 サウンドハウス

お問合せ(担当:採用係)

☎0476-89-1777

job@soundhouse.co.jp



春の新メニュー

春の大和御膳 2,500円

旬の食材をふんだんに使った今だけの御膳です。



先付 刺身 焼物 揚げ物 煮物 吸物 甘味
ホタルイカ酢味噌掛け
若竹煮
鰯の柚屋焼き
桜エビのかき揚げ
桜の吸い物
桜のアイスクリーム

レディース限定セット

※女性2名様より (要予約) 2,000円

- 気まぐれサラダ
- とろ〜り生湯葉のお刺身
- プチおからコロッケ
- 湯上り豚のおしロシ酢
- 海鮮茶碗蒸し
- ＜どちらか好きな方をお選び下さい＞
- ※エビとアボカドのサラダロール
- ※うどん de ばすた
- スペシャルデザート
- ワンドリンク付き



成田の天然温泉

神経痛や冷え性など、多数の効能がある成田の名泉



露天風呂<富士見の湯>

食事をしながら天然温泉に入れる個室も準備しております
(1時間 2,800円〜)

入館料|平日: 700円
土日祝: 1000円
※小学生の入館料: 300円(大人1名以上の入館の場合)
営業時間|10:00~22:00
※年中無休(全館禁煙)



0476-28-8111
本館学苑の入館はご遠慮ください

スパ&フィットネス

Yayoi SPA & FITNESS
アロマ・ボディなど一流施術師の本格的なケアをご提供
フィットネス料金変更
◆ジム 2,500円(前) 1,000円(新)
◆ジム+プール 4,000円(前) 2,000円(新)

歓送迎会コース

※4名様より(要予約) (1名様) 2,000円

※くわしくはスタッフにお尋ね下さい。

淡路島から日々直送

独自ルートで、とれたての魚を淡路から! 入荷する魚は日々変わりますのでご了承下さい。

好評! 淡路の鮮魚



WEB サイト案内

日本シティジャーナルをご覧いただきありがとうございます。本紙のバックナンバーはWEBサイトにすべてご覧頂けます。連載中の歴史に関するコラムは最新情報に随時更新してスペシャルサイト「日本とユダヤのハーモニー」にまとめてあります。また、ご意見・ご要望等をお待ちしております。FAXやホームページからお寄せ下さい。
日本シティジャーナル: <http://www.nihoncity.com/>
日本とユダヤのハーモニー: <http://www.historyjp.com/>

寒い日が続く、関東周辺でも今年は雪が多く降りました。立春を過ぎても桜前線の話題さへ耳にすることもなく、未だに真冬のジャンパーを着ながら街中を歩くこの頃です。時の流れは早いもので、NCJも1年続けばと半信半疑で始めた所、もうすぐ12年になるうとしています。その間、我が身も老化の一途を辿り、アンチエイジングの知恵を借りつつも、ストレスの悪影響は手ごわく苦戦しています。それでもまた、書き記して残したいメッセージがあると振るい立つこの頃です。

NCJ 編集長 中島 尚彦
1957年東京生まれ。14歳で米国に単身テニス留学。ウォートンビジネススクール卒業後、ロスアンゼルスにて不動産デベロッパーとして起業。米国ビジネス最前線で活躍する。1990年に帰国後、成田においてサウンドハウスを立ち上げる。現在サウンドハウスから代表、日本シティジャーナル編集長を兼務。趣味はギターとマラソン、アイスホッケー、及び日本古代史研究。